

2021年度 全学教務委員会(教務部)【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等		
①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は、昨年度と同様に4%以内を目標とする。特に、2年生、4年生の退学者の割合を下げる努力を行う。学年ごとにもみた退学者の目標値(過去3年間の実績から算出)は、1年生:3.9%、2年生:5.6%、3年生:2.7%、4年生:3.2%以下である。 各科目のナンバリングについては、今春より運用を開始する。 なお、次年度より「②学修状況調査の実施・分析」も、この項目内に包括する。	教務部(全学教務委員会)におけるKPIである退学者率と授業満足度を学部・学年ごとに調査し、教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また分析結果を、教務部として共有し、次年度の教育改善に活かす。	学修状況調査の実施率: 外国語学部:31.40% 経営学部:37.30% 人間学部:59.10% 保健医療技術学部:51.90%	”全学生数に占める退学者の割合は2.9%であり、昨年度の3.2%、一昨年度の4.0%に比較して低値を示していた。この3年間をみても、全体的には退学者を抑えることができていく。学年別の結果を前年度と比較してみると、1年生:2.3%→3.4%、2年生:4.8%→3.7%、3年生:2.2%→1.9%、4年生:3.5%→2.8%であった。今年度は1年生が前年度よりも高値を示していたが、この結果は保健医療技術学部において退学者の割合が4.7%→8.3%と増大していたことが大きな要因である。ここには、留年して1年生に複数回留まっている学生の退学者数が影響している。 授業満足度については、学修状況調査における「現在、授業に満足していますか」という設問に対する回答から算出した。昨年度の43.9%、一昨年度の73.9%に対して、今年度は78.4%と高い値を示していた。この結果は、対面での授業が増大したこと、さらにはオンライン授業の質的向上が要因として考えられる。また今年度新設した「現在、学修環境に満足していますか」という設問に対しては、満足度が71.0%とやや低値であった。この傾向は全学部のみならず、対面授業を希望する学生の意見が反映されたことによると考えられる。なお今年度は、学年別の分析ができていないことが問題点である。 科目のナンバリングについては、全学統一の基本ルールを定め、すでに運用していた経営学部を除く3学部でも運用を開始した。”	学部教務委員会 議事録、学修状況調査	個人面談や初年次教育、ゼミ活動などの少人数での授業を通して、正課外活動を含めた生活実態についても把握し、個別の対応を学部・学科の特性に合わせて行う。対面授業を基本とするものの、コロナ禍での授業運営であることには変わりがないため、状況に応じた対応を行う必要がある。	
②学修状況調査の実施・分析 学修状況調査は継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす。なお、大学全体としてみた授業満足度の目標は、2019年度の結果を目安として70%以上とする。そのためにも、授業方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。	*学修状況調査の実施・分析は、1①ベンチマーク結果などを基にした教育改善」の項目内に包括する。	***	”学修状況調査の回答状況を前年度と比較すると、外国語学部:45.7%→44.4%、経営学部:38.2%→37.3%、人間学部:75.7%→74.3%、保健医療技術学部:52.5%→51.9%であった。学部による差異が大きく、回答率の傾向が変わらないことが伺える。昨年に比して対面授業が増えたために、食堂やカフェを学修場所として使用する割合が高くなっていた。また、学修に関する満足度は高い傾向にあった。”	***	コロナ禍での授業でもあり、「授業満足度」の項目は、今年度より2項目に分割した。2022年度も基本的にはこの2年と同じ質問項目で実施する。実施後には、教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接、分析担当者に送信する)。	
②学修ポートフォリオの実施・分析 学修ポートフォリオに関する意識向上を、学生・教員に対してはたらしかける(学部単位で)。また、実施率の調査も合わせて行う。	DPの到達度を確認する目的で実施する学修ポートフォリオは、学生の自己評価、教員からのフィードバックともに100%を目指して、はたらしかける。	学修ポートフォリオの実施率は以下の通り。 外国語学部:16.1%、 経営学部:1年生79.8%、 2年生5.0%、3年生:2.0%、4年生:0.4% 人間学部実施率:2年生:58.7%、3年生:52.4%、 4年生:52.7% 保健医療技術学部 理学療法学科、作業療法学科:100%、臨床検査学科:37.5%、看護学科:97.5%	学修ポートフォリオを用いてDPの到達度チェックを3年前より全学で取組んでいる。外国語学部、人間学部、保健医療技術学部においてはTeamsを、経営学部においてはSalesforceを用いて実施した。経営学部をみると、1年次に高い実施率であるものの、2年次以降で著しく低値である。他の学部においては、学生の自己評価(GPA自己入力含む)、その後の教員によるフィードバックを行うことを念頭においた取組であるが、学部・学科による数値のばらつき、実施率が不透明さが問題である。	全学教務委員会 議事録	学修ポートフォリオは学務委員会主導で行っているため、実施率が学部・学科で異なる。このため、全学教務委員会としての対応が必要である。また学部長の協力を得るために内部質保証委員会においても実施率向上を呼びかける。	
③PROGテストの実施・分析 継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす(対面での実施を基本にして)。	PROGテストを1年生と3年生を対象に対面を実施し、教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また結果については、学部ごとに活用方法を検討する。また、PROGテストを継続して実施するかについても、検討する。	PROGの実施率は以下の通り。 外国語学部:1年生94.5%、3年生:92.5% 経営学部:1年生90.2%、 3年生79.9% 人間学部:1年生94.0%、3年生:82.9%、 保健医療技術学部:1年生98.7%、3年生94.8%	PROGテストは1、3年生を対象に実施したが、昨年に比して回答率は高かった。結果については、教学IR委員会に依頼して分析を行っている。結果が得られ次第、大学運営会議での報告を行う予定である。また昨年と同様、各学部で分析を依頼して、当委員会での報告の予定である。	全学教務委員会 議事録	PROGテストの回答率をあげるため、対面での実施を基本として行うように各学部へ提案していく。また、実施後には、教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(2021年度は分析がが遅延)。	
④基礎学力テストの実施・分析 継続して実施し、その分析内容を教育内容に活かす。	基礎学力テストを、入学後早期に実施する。その結果については、学部・学科ごとに活用する。	基礎学力テストの結果は以下の通りである。 外国語学部: SPI:96.1%、 TOEIC:89.0% 経営学部:SPI:82.3%、 英検IBA:未確認 人間学部:実施率未確認 保健医療技術学部:理学療法学科:96.9%、 作業療法学科:100%、 臨床検査学科:100%、 看護学科:97.8%	各学部が指定した基礎学力テストを、オンラインあるいは対面を実施した。いずれも高い回答率であり、学修指導の基礎データとして活用している。具体的な活用方法、経年的な分析結果は、当委員会での報告があった。	全学教務委員会 議事録	経年的変化を追う意味でも、基本的には同一科目(内容)で実施する。実施後には、その結果については、ブレイスメントテストとして利用の他に、初年次教育科目やゼミ等において、基礎学力を高めるための情報として利用する。とくに成績の低い結果を示した学生に対しては、個別支援も検討する。	
⑤公開授業実施 運営方法・内容などの検討を学部ごとに行い、全学教務委員会で情報交換を行う。また、アンケート結果については当委員会で共有し、教育改善に反映させる。	学部ごとに公開授業を実施する。アンケート結果は教務部で共有し、次年度の教育改善に活かす。		”外国語学部と経営学部ではオンデマンド形式、人間学部においてはオンラインLIVE形式で、オンライン授業公開(動画配信)を行った。コロナ禍でもあり、比較的多くの閲覧があった(対面時の人数と比較して)。唯一対面でも実施した保健医療技術学部では、参加者数が少なかった(例年並み)。	出席者アンケート結果	参加率向上を視野に入れて、学部の特性に応じた実施方法を検討して実施する。また、アンケートなどによる出席者の意見を教育改善に反映させる。	
⑥「国際化に対応した地球市民の育成」、「永久サポート大学」実現に向けた対応 各学部・学科で、カリキュラム改変、卒業生に対するリカレント教育体制の検討を行う(教務委員会を中心に)。	各学部・学科で、カリキュラム改変、卒業生に対するリカレント教育体制の検討を、学部教務委員会を中心に行う。また、研究推進作業部会と連携した共同研究の可能性について、検討を行う(卒業生の就職先や実習先など)。		教学合同連絡会とも連携し、検討を行ってきた。次年度は、「データサイエンス入門」を外国語学部1年生後科科目として設置し、他学部からも履修可能なように配慮する。また、卒業生に対するリカレント教育体制を全学的検討を開始したが、実行には至っていない。	4学部履修要綱	情報リテラシー教育の強化、さらには数理・データサイエンス・AIに係る科目の開講を、全学的に検討する(全学学学課程教育委員会との連携)。またリカレント教育についても、在学時に学修した専門領域に限らず、幅広い教養を修得するためのサポート体制を検討する。	

2022年度 全学教務委員会(教務部)

PLAN(計画)	DO(実施)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)
①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は、過去2年間と同様に4%以内を目標とする。学年ごとにもみた退学者の目標値(過去3年間の実績から算出)は、1年生:3.3%、2年生:4.8%、3年生:2.5%、4年生:3.0%以下である。 一部を除いて退学者の割合が下がっているの、より低値となるように学生対応を行う。退学者の割合が特に高い保健医療技術学部の1年生においては、学科ごとの対策を検討するよう要請する。 学修状況調査は継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす。なお、学修状況調査の回収率は、2021年度を目安として60%以上とする。そのためにも、実施方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。	教務部(全学教務委員会)におけるKPIである退学者率と授業満足度を学部・学年ごとに調査し、教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また分析結果を、教務部として共有し、次年度の教育改善に活かす。	
②学修ポートフォリオの実施・分析 学修ポートフォリオに関する意識向上を、学生・教員に対してはたらしかける(学部単位で)。	DPの到達度を確認する目的で実施する学修ポートフォリオは、学生の自己評価、教員からのフィードバックともに100%を目指して、はたらしかける。	
③PROGテストの実施・分析 継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす。	PROGテストを1年生と3年生を対象に対面を実施し、教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また結果については、学部ごとに活用方法を検討する。また、PROGテストを継続して実施するかについても、検討する。	
④基礎学力テストの実施・分析 継続して実施し、その分析内容を教育改善に活かす。	基礎学力テストを、入学後早期に実施する。その結果については、学部・学科ごとに活用する。	
⑤公開授業実施 運営方法・内容などの検討を学部ごとに行い、全学教務委員会で情報交換を行う。また、アンケート結果については当委員会で共有し、教育改善に反映させる。	学部ごとに公開授業を実施する。アンケート結果は教務部で共有し、次年度の教育改善に活かす。	
⑥「国際化に対応した地球市民の育成」、「永久サポート大学」実現に向けた対応 各学部・学科で、カリキュラム改変、卒業生に対するリカレント教育体制の検討を行う(教務委員会を中心に)。	各学部・学科で、カリキュラム改変、卒業生に対するリカレント教育体制の検討を、学部教務委員会を中心に行う。また、研究推進作業部会と連携した共同研究の可能性について、検討を行う(卒業生の就職先や実習先など)。	